土木学会　コンクリート委員会
ｺﾝｸﾘｰﾄの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小（339）委員会（第Ⅱ期）
第１回　議事録

日　時：2010 年 7 月 23 日（金）　15:00～17:00
場　所：弘済会館　４階　蘭東
出席者：（敬称略、順不同）：鎌田委員長、岩波幹事長、秋山、稲熊、岩野、岩本、内田、大島、大野、掛、北川、斎藤、下薗、鈴木、瀬古、武田、渡海、永田、中村、藤原、桃木、森濱、湯山、吉沢、渡辺　の各委員　（以上 25 名）

配付資料：
　１－０　議事次第
　１－１　委員公募のお知らせ
　１－２　委員名簿
　１－３　第１期最終シンポジウムアンケート結果
　１－４　セメント新聞記事
　１－５　セメント・コンクリート原稿
　１－６　３３９委員会第２期目の活動内容　検討メモ
　１－７　【話題提供】型枠面での高周波静電容量測定によるコンクリート充填状態の判定に関する研究（瀬古委員）

議　事：

１．開会の挨拶と委員会設置趣旨

鎌田委員長より、委員会開催にあたっての挨拶があった。その中で、第１期委員会での活動成果や、今後の委員会の基本的な活動方針についての説明があった。具体的には、メンバーそれぞれが“主人公”になるような活動、土木学会でしかできない活動を、情報発信とともに積極的に行っていきたいとの話があった。

２．委員自己紹介と参加の抱負

各委員より、自己紹介および委員会参加の抱負について説明された。第１期での役割と、委員応募時に執筆した「コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上のために、今、最も必要とされていることは何か？」および「本委員会で自分が貢献できる分野（領域）」について各委員から口頭で説明を行った。

３．第１期の活動の総括
４．第２期の活動方針

岩波幹事長より、配付資料の説明とともに、３．第１期の活動の総括および４．第２期の活動方針についての説明があった。

配付資料１－３：第１期のシンポジウム参加者のアンケート紹介を行った。シンポジウムに満足したという回答が多かった一方、「混んでいた」、「会場が狭かった」等の意見もあり、今後の活動の参考にしていくとの説明があった。

配付資料１－４：本委員会の活動を紹介するセメント新聞記事の説明があった。委員会活動の情報発信の１つの取り組み事例である。

配付資料１－５：セメント・コンクリート原稿（宮川先生）の紹介があった。一部、本委員会第１期活動資料を引用していただいている。

配付資料１－６：岩波幹事長より、第２期の活動における基本方針の説明があった。第２期の活動方針として、３つのＷＧ設置案の説明とともに、各ＷＧの主査・副査を中心に取り組みたいことを拡大して積極的な活動をして欲しいとの話があった。

また、鎌田委員長より、様々な意見を出しながら活動をして欲しいとの話があった。なお、第１期は、複数のＷＧに所属している委員もあったが、（ＷＧ活動の時間の重複の関係で）第２期はいずれか１つのＷＧ所属として活動を行っていく方針との話があった。

各ＷＧの主査・副査より、ＷＧ活動についての抱負が語られた。

ＷＧ１：試験装置（新規）、現場計測関連ＷＧ［主査：森委員、副査：吉沢委員、内田委員］

内田委員の抱負：具体的活動方針はこれから詰めていきたい。供試体では精度よく非破壊調査結果が得られるが、現場（既設構造物）ではなかなかうまくいっていない現状を打開していきたい。また、新規試験装置の開発にも取り組み、衝撃弾性波法の取得データのバラツキを軽減するための入力装置など、幅広い取り組みをする。結果的に、非破壊評価技術の信頼性が高まるように活動を展開していく。

吉沢委員の抱負：４月から所属が変わり、現場に出ている。第１期のシンポジウムのように、他分野の技術も幅広く検討していきたい。また、現場の立場からの情報発信や貢献もしていきたい。

その他、解析は主にＷＧ１試験装置の検討の一部と検討と想定していること、非破壊評価技術の現場検証のフィールドを得るために委員会全体で活動していくことなどが、意見交換された。

ＷＧ２：規格・規準、資格認定制度（新規）関連ＷＧ［主査：渡辺委員、副査：藤原委員］

渡辺委員の抱負：活動内容と方針について２点の説明があった。

① 資格認定制度について：コンクリート以外の先行している分野の事例調査を行う。
第１期のＷＧ１では内容が難しくなった面があるが、今回は非破壊のニーズに応えるためにも、野菜ソムリエならぬ“非破壊ソムリエ”として「非破壊評価技術の新しい使い方」などができると良いと考えている。

② 非破壊評価技術の標準試験体の提案ができないかと考えている。

藤原委員の抱負：ＷＧ２に人気が集まり、活動が活発になるように、縛りを無くしどんどん活動を進めていきたい。なお、今期は“現場で使いやすい、理解しやすい”内容にしていきたいと考えている。シンポジウムや書籍でも提言していく。

その他、非破壊評価技術の現場での理解の低さに起因する課題や、発想の転換とともに活躍の場の拡大について意見交換された。また、湯山委員より非破壊検査協会での資格のＩＳＯ化についての話があった。

ＷＧ３：先端研究推進、ソフト開発（新規）関連ＷＧ［主査：大島委員、副査：稲熊委員、渡海委員］

大島委員の抱負　衝撃弾性波やコンクリート以外も、医療分野など広く情報収集を行いたい。非破壊評価技術の可視化についても、複数サンプルを作成して一番分かりやすい表現方法などを検討していきたい。コンクリートの非破壊評価技術は、現状コンクリートの品質評価がメインとなっているが、構造性能の評価を行うことが究極の目標と考えている。強度推定のみでなく、他分野の事例収集を行い、これまでと違う展開も検討していきたい。具体的には、調査サンプルを作成するのが中心になるかとも考えている。

稲熊委員の抱負：自由で活発な発想と、現実的な非破壊評価技術の活用法の中間を目指していくものと考えている。成果にこだわることなく、きちんと活動を進めていきたいと考えている。

渡海委員の抱負：非破壊評価技術の結果の見せ方、可視化は重要である。３Ｄ表示にするだけで興味を持ってもらうことができる。測量分野では３Ｄスキャン等もあり、非破壊評価技術も調査の過程を３Ｄにする等の検討が必要と考えている。

岩波幹事長より、第２回委員会までに、メールで所属ＷＧの希望調査を行うとの連絡があった。第２回委員会以降は、全体委員会とＷＧ活動の２本立てで委員会を運営していくとの話があった。各ＷＧの主査・副査には、色々と議論のネタの準備を進めて欲しいとの要望もあった。

５．話題提供（瀬古委員）

配付資料１－７により瀬古委員より話題提供があり、「型枠面での高周波静電容量測定によるコンクリート充填状態の判定に関する研究」の説明があった。具体的には、施工現場における、躯体コンクリートの品質確保を目的として、打設段階での充填状況を型枠外側から測定・判定する技術の研究であり、実証実験の結果や、“使い方シート”などの工夫点についての説明がなされた。その後の質疑の時間では、活発な意見交換を行った。

６．その他

(1) 委員会ＨＰについて

委員会ＨＰの作成・更新は第１期に引き続き、内田委員が行うとの説明があった。すでに作成中であり、ＨＰ更新の協力者を募集中である。

(2) 幹事について

委員会活動やＷＧ活動を中心的に実施し、そのとりまとめ役となる幹事を、各ＷＧの主査・副査の委員が務めることが、鎌田委員長より確認された。

次回の予定

日　時：2010 年 11 月 5 日（金）　　各ＷＧ　14:00～16:00、全体委員会　16:00～17:00
場　所：土木学会　E･F 会議室

以　上